

授 業 科 目 名	保育実習指導Ⅱ	教 員 名	城戸佐智子	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	演習	配当年度	4年次前期	卒業要件	保育士	選択必修
科 目 番 号	JIS401				こども音楽療育士	
単 位 数	2単位				小幼コース	選択
科 目					幼保コース	選択必修
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	保育実習Ⅰa（保育所）を通して学んだ知識や技術等について振り返り、自己の学習課題及び保育実習Ⅰ以降に養成校で学んだ教科の内容をもとに、新たな実習の目標を設定し、総合的に保育をとらえる意識を持って保育実習Ⅱに臨めるようにすることを目標とする。					
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 の 概 要	本講義は、保育実習Ⅰaの振り返りをもとに、保育実習Ⅱに臨む準備を行う。具体的には、実習目標の設定、実習日誌の書き方の見直し、保育指導案の立案、さらに、より専門性を高めるために、異年齢保育や子育て支援、保育士としての職業倫理等を保育所保育指針解説や事例から学び、保育士としての専門的な知識・技能の意義を考察できるようにする。アクティブラーニングとして、振り返り、個別の質疑応答、グループディスカッションなどを取り入れる。					
授 業 計 画	<p>第1回：保育実習Ⅰaの振り返り① 保育実習Ⅰaの自己評価を行い、それぞれの反省をもとに、課題を明確化する。（目標5）</p> <p>第2回：保育実習Ⅰaの振り返り② 保育実習Ⅰaにおける学びの共有を行う。それぞれの学びの多かったエピソードを共有し、共感できる点、自分だったらどう対応するか、子どもの思い、疑問点などを考察する。（目標2,5）</p> <p>第3回：保育実習Ⅱに向けての課題設定 第1,2回の振り返りから、保育実習Ⅱの自己課題を設定する。（目標1,5）</p> <p>第4回：実習日誌の書き方の見直し再確認 保育実習Ⅰaの実習日誌を見直し、書き方について再確認する。（目標3,5）</p> <p>第5回：保育指導案について① 保育指導案の書き方について、要点を再確認する。（目標2,3）</p> <p>第6回：保育指導案について② 3歳未満児の保育や異年齢保育などの立案についての要点を学ぶ。（目標2,3）</p> <p>第7回：保育指導案について③ 立案した指導案についてグループで話し合い、修正する。（目標2,3）</p> <p>第8回：多様な保育ニーズの実際とその対応 現代社会に求められている保育とはどのようなものか話し合い、保育所における保育サービスとその対応について学ぶ。（目標4）</p> <p>第9回：家庭（保護者）とのコミュニケーション、子育て支援の実際とその対応 保育実習Ⅰaの経験をもとに、保育者がどのように家庭と連携していたかを話し合い、自分なりの考えを見出す。また、保育所での子育て支援の在り方を考える。（目標4）</p>					

	<p>第10回：他専門機関との連携の実際について 連携を必要とする専門機関について学び、その連携から保育士としての役割について考える。 (目標4)</p> <p>第11回：保育士の倫理観について① 保育実習Ⅰaから保育士としてどのような心構えや自覚が必要だと感じたのか意見交換し、グループごとにまとめる。(目標4)</p> <p>第12回：保育士の倫理観について② 法律や児童憲章、全国保育会倫理綱領、保育所保育指針から保育の専門性や倫理観について学ぶ。 (目標4)</p> <p>第13回：保育士の倫理観について③ 事例をもとに、保育士として取るべき行動等を考え、グループごとにまとめる。(目標4)</p> <p>第14回：保育実習Ⅱの評価について 保育実習Ⅱの評価の内容を知り、実習に生かせるようにする。また、実習後に行う事後指導における反省の視点を明確にする。(目標1,5)</p> <p>第15回：実習前の準備、実習中の注意事項や実習後の手続きについて 実習に臨む前の心構え、準備物等の確認をする。また、実習中や実習後の手続きについて確認する。(目標1,5)</p> <p>定期試験</p>
学生に対する評価	<p>定期試験50%、レポート提出50%で評価する。60%以上を合格とする。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：前回の授業内容を復習し、自分の知識としておくこと。理解不十分なことは次の授業で質問をすること。</p> <p>事後学習：講義内容について自分なりに整理し、次回の授業までに理解しておくこと。理解不十分な内容は次回の授業で質問をすること。</p>
テキスト	特になし
参考書・参考資料等	<p>『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館</p> <p>『保育指導案大百科事典』 関仁志編著 一藝社</p>
担当者からのメッセージ	大学での最後の実習となるため、明確な目標を持ち、将来の見通しを持って実習に臨めるようにしてください。
オフィスアワー	授業日の放課後 Email : skido@edu.miyazaki-mic.ac.jp